

# Computer Report

Vol. 59 No. 8 8月号 (通巻 779号)

## はじめの言葉

■投票率 48.80 % (選挙区) が示すように、相変わらず国民の政治への無関心さを示した参議院選挙だった。日本を取り巻く環境は、内外を問わず、厳しきは増しているにも拘わらず。朝鮮半島では今や北の脅威だけでなく、日本にとっては南の動きも決して油断のならないものだという状況が露わになっている。慰安婦問題、徴用工問題など、戦後、日韓間に交わされた国家間交渉をすべて無に付す解釈が台頭している。

■慰安婦／徴用工問題も含めて日韓間で戦後処理として交わされてきた外交上合意が、韓国では適切な国内処理されていなかったことが改めて確認できる。要するに、当該当事者への個別支払いが不履行のままだったのだ。言わば韓国の国内不適切処理問題を、改めて日本に要求してくる姿勢に驚かせられる。この間の日韓の国家間合意で支払われた賠償金を、韓国／韓国人はどう考えているのか。これが日本／日本人の感覚である。

■どういう政治問題／国内課題を優先するかは、それぞれの国家の自由である。韓国で、今問題だとしている自国民への不履行問題を、もし日本から指摘していたら、文字通り内政干渉だと騒がれていただろう。実に慰安婦／徴用工への賠償金支払い問題は、韓国への内政問題なのである。自国の内政問題を他国にいつまでも押し付けてくる韓国／韓国人の本質を通じて今、日本／日本人は改めて多くを学ぶ局面に立たされている。

■国防軍備の強化を狙う中国にしてもそうである。一方で 70 年余前の建国当時の世界情勢を謳いあげ、その一方で自国は今現在、チベット／ウイグル／モンゴルなど中央アジアで他国への侵略行為を実行し、加えて南沙諸島における軍事基地建設など海洋への軍事進出を顕著にしている在り様は、前時代的帝国主義そのもの。国政的に言っても、共産主義国家などとは、文字通り「絵に描いた空」。中国国内の貧富の差は、極限的状況にある。

■共産党一党支配体制を最初に採った国は、ロシアである。やがてソビエト連邦として展開され、それに東欧諸国が従った。が、ソ連邦崩壊、ベルリンの壁崩壊に象徴されるように共産党一党支配体制の歴史実験は破綻している。唯一中国を除いて。中国の長い歴史では幾たびも帝国崩壊が繰り返されてきた。その一番の理由は、国民の貧富の格差問題である。今現在の中国における貧富の格差は論じるまでもない。

■マルクス／エンゲルスの「共産党宣言：万国の労働者よ団結せよ」が発せられた当時のどの世界よりも、今の中国の貧富の格差は大きいだろう。その意味で、中国は今、世界で最も共産主義武力革命が、いつ起こっても不思議の無い国となっていると言えよう。それを一番強く認識し、恐れ、危機感を持っているのが、中国共産党政府だろう。その恐れのみだけ軍事力の強化し、周辺隣国への侵略侵攻の形となっていると見ていいだろう。

■他国のことだけを心配している暇はない。危ないのは、我が日本も同じである。いたずらにデフレ不況という思い込みが蔓延しているが、物価が安定しているという点では、国民生活の営みとしては好ましい。今回の選挙では、給料の上昇をスローガンとして訴える政党があったが、これは、単なるデフレ脱却論と同様、政策とは言い難い。国民生活の豊かさは、見かけの収入ではない。危機の根源／本質を認識したい。(藤見)